



株式会社田中化学研究所

2017年3月期 第2四半期決算説明会
2016年11月14日

目次

1. 2017年3月期 第2四半期決算ハイライト
2. 2017年3月期 第2四半期のトピックス
3. 住友化学に対する第三者割当による新株式発行について
4. 製品別販売数量推移
5. 営業外収支および特別損益
6. キャッシュフロー計算書
7. 比較貸借対照表
8. 中期経営戦略
9. 2017年3月期通期予想
10. 製品別販売数量推移予想
11. 2017年3月期業績予想の補足説明
12. 主原料国際価格推移（\$/LBベース）

2017年3月期 第2四半期決算ハイライト

(百万円)

	2016/9期	増 減	2015/9期
売上高	7,685	+359 (+4.9%)	7,326
営業利益	-104	-24	-80
経常利益	-215	-69	-146
四半期純利益	-198	-210	12
EPS(円)	-13.35	-14.16	0.81
設備投資	85	-159 (-65.1%)	245
減価償却費	397	-124 (-23.8%)	522
期末従業員数	183名	+3	180名

2017年3月期 第2四半期のトピックス

1. 売上高は前年同期比4.9%増加の7,685百万円。販売数量は前年同期比46.0%の増加。
2. ニッケル水素電池向けでは、全体で前年同期比40.3%の増加。
民生用途では海外顧客からの受注が増加。環境対応車用途では一過性の受注減少終了により回復基調となった。
3. リチウムイオン電池向けでは、結果として全体では前年同期比48.2%の増加。
民生用途・環境対応車用途ともに新規顧客向けの販売が増加。
4. 主原料相場は回復基調であるもののその幅は限定的。
足下の相場が反映される売上高に対して、売上原価となるたな卸資産の価格が高く推移する状況は改善されておらず、たな卸資産の期末評価損を含めて119百万円の損失を計上。
5. 急激な円高進行を受けて営業外費用として50百万円の為替差損を計上。
6. 結果として、第2四半期は営業損失104百万円、経常損失215百万円、四半期純損失198百万円を計上。
7. 平成28年10月31日付で住友化学株式会社に対して第三者割当による新株式発行。
住友化学株式会社の持株比率が50.1%となり、当社の親会社となった。
8. 財務体質の改善により、「継続企業の前提に関する注記」は解消。

住友化学に対する第三者割当による 新株式発行について

1. 【背景】

成長が期待される二次電池業界の需要を取り込み、住友化学との共同開発品を事業化するにあたって、需要増加に見合う生産体制構築のため設備投資、販売力強化及び研究開発体制の一層の充実のためには資金手当てを含めた財務体質強化が必須であった。

2. 平成28年10月31日付で住友化学に対して10,500千株を新規発行。

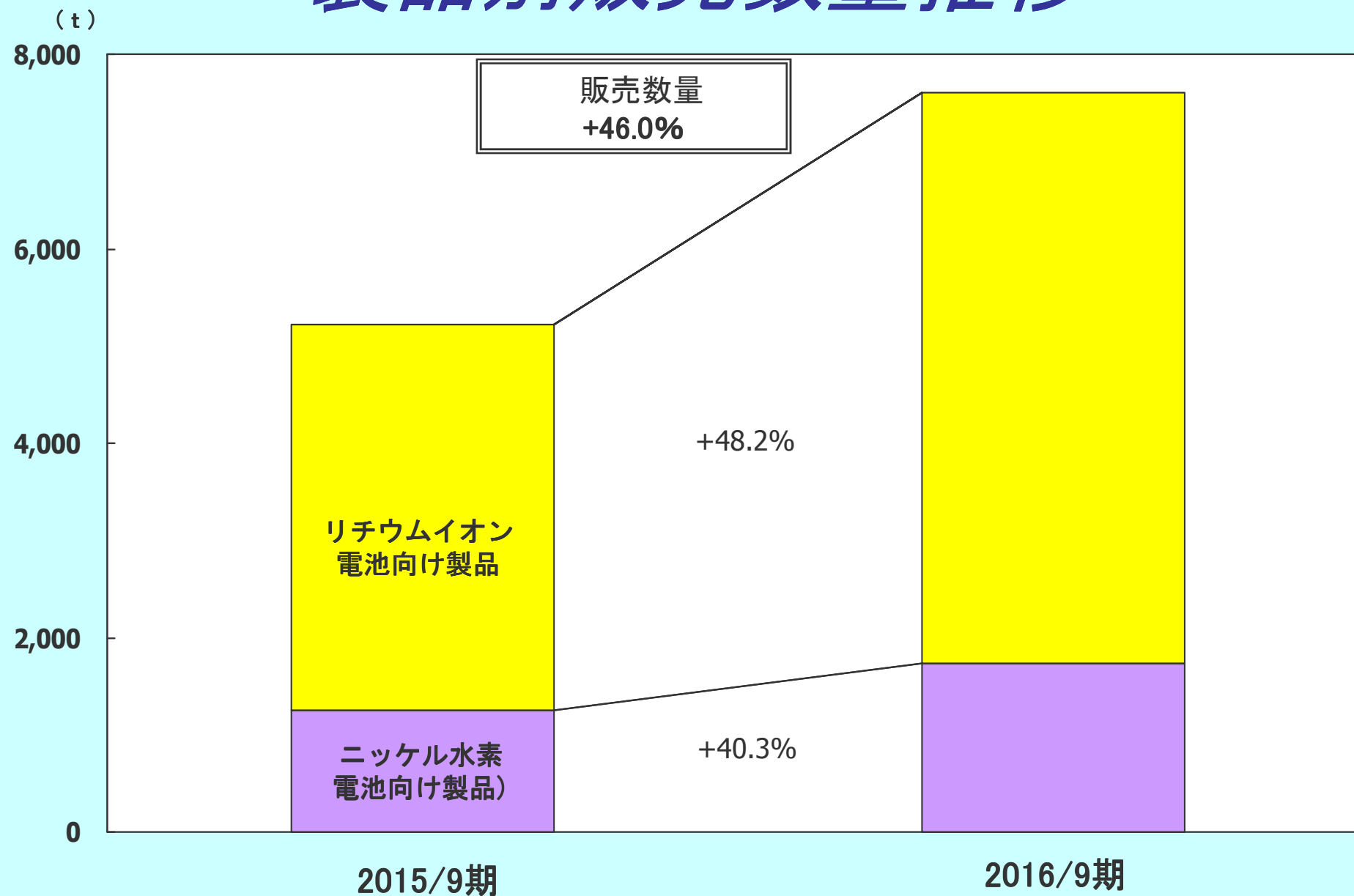
住友化学の持株比率は14.81%から50.10%に増加し、当社親会社となった。

3. 今回の新株式発行により、当社が調達した資金は6,573百万円。

資金用途はリチウムイオン電池向け製品増産及び研究開発にかかる設備投資。

投資時期は平成29年1月から平成31年3月を予定。

製品別販売数量推移



営業外収支および特別損益

(百万円)

	2016/9期	増 減	2015/9期
営業外収支	-110	-44	-66
金融収支	-43	+8	-52
為替差損	-50	-38	-11
その他	-16	-14	-1
経常利益	-215	-69	-146
特別損益	+14	-151	+166
税引前四半期純利益	-201	-221	+19
法人税等	+3	-10	-7
四半期純利益	-198	-210	+12

キャッシュフロー計算書

(百万円)

摘 要	2016/9期
I.営業活動によるキャッシュフロー	
税引前当期純利益	-201
減価償却費	+397
運転資本増加による資金の減少	+281
未収消費税等の減少	+155
その他	+70
計 (A)	+704
II.投資活動によるキャッシュフロー	
有形固定資産の取得	-197
その他	-2
計 (B)	-199
フリーキャッシュフロー(A)+(B)	+504
III.財務活動によるキャッシュフロー	
長期借入金の返済による支出	-154
ファイナンス・リース債務の返済による支出	-64
計	-219
現預金等換算差額	-10
現預金等増減額	+275
期末現預金残高	3,168

比較貸借対照表

(百万円)

	16/3期	16/9期	増 減		16/3期	16/9期	増 減
流動資産	(7,865)	(8,316)	(+450)	流動負債	(3,319)	(3,952)	(+632)
現預金	2,893	3,168	+275	仕入債務	2,264	2,873	+608
売上債権	2,120	2,185	+64	借入金	309	433	+124
棚卸資産	2,538	2,800	+261	その他	746	645	-100
その他	313	161	-151	固定負債	(7,330)	(6,990)	(-339)
固定資産	(4,599)	(4,241)	(-358)	負債 計	10,649	10,942	+292
有形固定資産	4,471	4,117	-353	純資産			
無形固定資産	17	17	-0	資本金	2,492	2,492	—
投資等	110	106	-4	利益剰余金	-685	-883	-198
				自己株式	-2	-2	—
				評価・換算差額等	10	7	-2
				(自己資本比率)	(14.6%)	(12.9%)	(-1.7%)
				純資産 計	1,815	1,614	-200
合 計	12,465	12,557	+91	合 計	12,465	12,557	+91

中期経営戦略

【経営環境】

★環境対応車用途の需要拡大に向けた大手資本の新規参入。

★民生用途/環境対応車用途におけるグローバル市場の競争激化。

【経営戦略】

中長期的に成長が見込める環境対応車分野の高品質製品への注力

1. リチウムイオン電池向け材料事業の最適化
2. ニッケル水素電池向け材料事業の最適化
3. コスト競争力の強化
4. 人材組織改革

2017年3月期通期予想

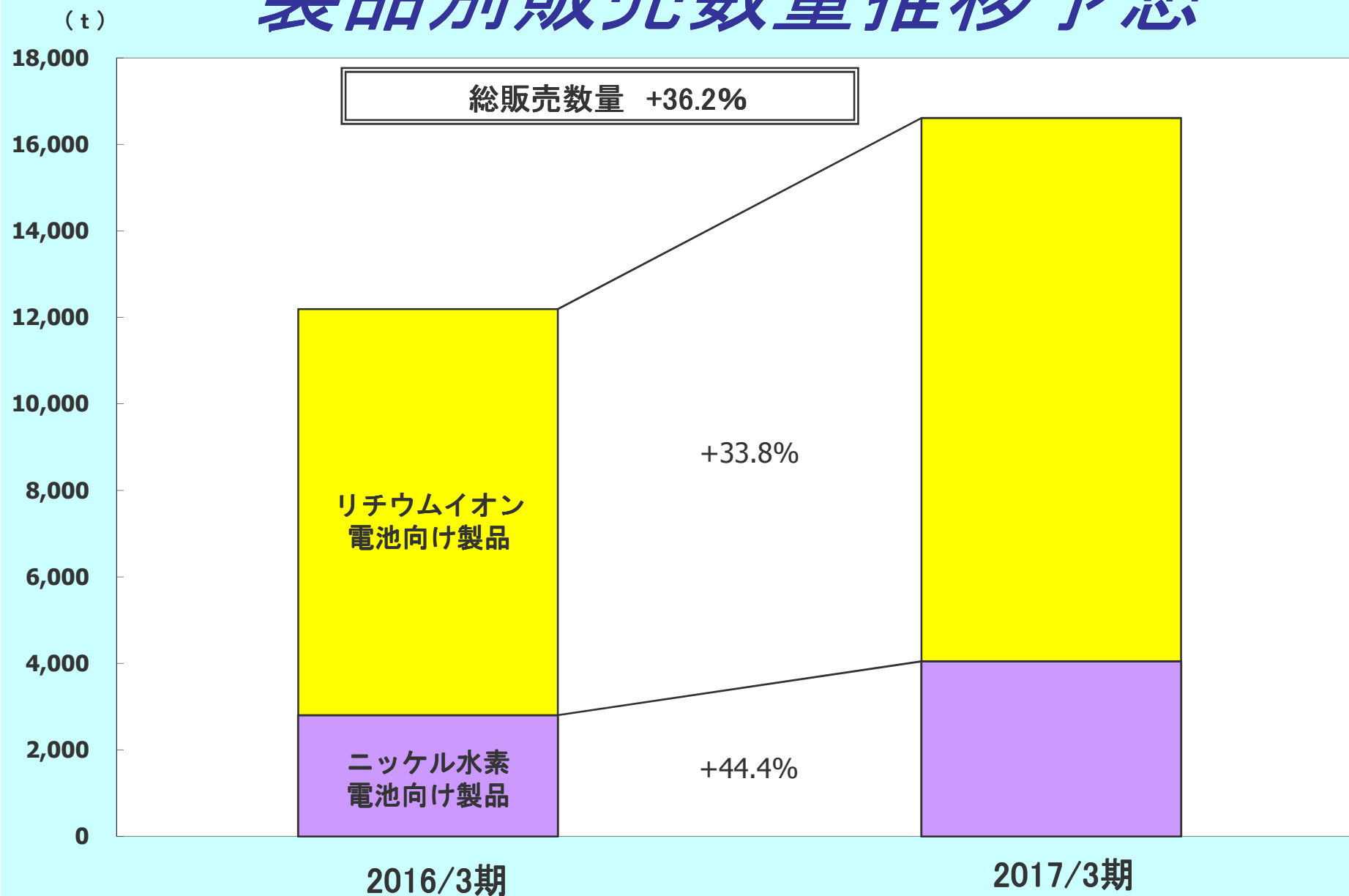
(百万円)

	2017/3期予想	前年比	2016/3期実績
売上高	17,000	+1,734 (+11.4%)	15,266
営業利益	240	+541	-301
経常利益	60	+634	-574
当期純利益	50	-263	312
設備投資	350	-184 (-34.5%)	534
減価償却費	810	-275 (-25.3%)	1,085

(10月31日公表ベース)

※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

製品別販売数量推移予想



2016年3月期業績予想の補足説明

1. 当期の業績予想には、下期におけるニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
2. 数量面では前年比36.2%の増加を計画しております。
環境対応車向け事業の拡大と民生向け新規顧客獲得や新規用途への展開を更に進めることにより、リチウムイオン電池向け材料トータルで前年比33.8%、ニッケル水素電池向け材料トータルで前年比44.4%の増加を見込んでおります。
3. 設備投資につきましては、350百万円を計画しております。
また、減価償却費は810百万円となる見込みです。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

主原料国際価格推移(\$/LBベース)

